

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数、理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査の分析

(1) 国語

■ 概要

平均正答率については全国値とほぼ同じであり、大阪府の値をやや上回りました。また、単純に比較はできませんが、正答率は、昨年度と比べて、ほぼ同じでした。



■ 各領域における成果と課題、指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える」、「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」等の問題です。ここ数年、学校教育目標を「つたえよう わたしの思い うけとめよう あなたの思い」として、「学び合い」による授業方法に取り組んできた成果が表れていると考えます。

【書くこと】

この領域では全国値を下回りました。この領域の問題は、「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」、「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見つける」等の問題です。目的や意図に応じて、資料から必要な文章や言葉を選び、より効果的に詳しく書き表すというのは難しい作業です。普段からの練習が必要です。

【読むこと】

この領域では全国値とほぼ同じでした。この領域の問題は、「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える」、「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」、「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」、「表現の効果を考える」等の問題です。今後も読む目的を明確にし、必要な情報を見付けたり要約したりする活動が必要です。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

この事項では全国値とほぼ同じでした。この事項の問題は、「話し言葉と書き言葉との違いを理解する」、「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」、「漢字を文の中で正しく使う」等の問題です。

【我が国の言語文化に関する事項】

この事項では全国値を下回りました。この事項の問題は、「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」等の問題です。語彙は書く機会が多いと広がります。また、読書によって様々な文章に触れることも大切です。

■ 国語科における分析結果と課題について

今後、「対話的な学び」を実現していくためには、あらゆるツールを効果的に活用する力が問われてきます。そこで、「文章の構成を理解すること、さらに目的に応じて文章を要約すること、情報を関連付けて理解を深めること」等を、伸ばしていきたいです。そのためには、本や新聞等を使って、読み手や書き手の考えについて語り合うことや書くことが大切と考えます。この活動は、ご家庭でも、保護者と共に取り組むことができます。

(2) 算数

■ 概要

平均正答率については全国値、大阪府の値に比べ、ともに大きく上回る結果となりました。また、単純に比較はできませんが、正答率は、昨年度に比べて、ほぼ同じでした。

■ 各領域における成果と課題、指導改善のポイント

【数と計算】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる」、「加法と除法の混合したポイント数の求め方を解釈し、他の場合の求め方と答えを記述できる」等の問題です。よく理解できていると思います。様々な取り組みの効果が表れているものと思われます。

【図形】

この領域では全国値をやや上回りました。この領域の問題は、「正三角形の意味や性質を基に、角の大きさに着目し、正三角形の構成について考察し、記述できる」、「図形を構成する要素に着目し、ひし形の意味や性質、構成について理解している」等の問題です。他の領域と比べるとやや上回るにとどまっていますが、概ね理解できていると思われます。



【変化と関係】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、「百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる」、「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、数量を求めることができる」等の問題です。よく理解できていると思います。

【データの活用】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる」、「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる」等の問題です。よく理解できていると思います。

■ 算数科における分析結果と課題について

算数の全ての領域で全国値を上回り、よく理解できていますが、算数においても、今後、「対話的な学び」を実現していくためには、あらゆるツールを効果的に活用する力が問われてきます。そこで、「単に公式を覚えるのではなく、求め方を式や言葉を用いて記述すること」、「どのような解答の仕方が求められているのかを読み解くこと」、「理由を記述するうえで、解答の筋道を論理的に書くこと」を、今後伸ばしていきたいです。そのためには、求め方を文に書いたり、設問に求められる条件を見つけたりすることが大切です。「どうやって解いたの?」「なぜそう考えたの?」等、子どもに説明させる問いかけを意識的に使うことは、ご家庭でも、保護者と共に取り組むことができます。

(3) 理科

■ 概要

平均正答率については全国値とほぼ同じであり、大阪府の値をやや上回りました。理科は3年ぶりの実施のため、経年比較は行いません。

■ 各領域における成果と課題、指導改善のポイント

【エネルギー】

この領域では全国値をやや上回りました。この領域の問題は、「まとめを導き出せるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している」、「発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えを持つことができる」等の問題です。よく理解できていると思います。

【粒子】

この領域では全国値を下回りました。この領域の問題は、「一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称〈メスシリンダー〉を書く」、「メスシリンダーの正しい扱い方を身につけている」等の問題です。



【生命】

この領域では全国値とほぼ同じでした。この領域の問題は、「観察の視点を基に、問題解決するまでの道筋を構想し、自分の考えを持つことができる」、「提示された情報を、複数の視点で分析して解釈し、自分の考えを持つ」等の問題です。

【地球を柱とする領域】

この領域では全国値をやや上回りました。この領域の問題は、「観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つことができる」、「水は、水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している」等の問題です。よく理解できていると思います。

■ 理科における分析結果と課題について

理科の多くの領域で全国値をやや上回り、理解できていますが、今後、「対話的な学び」を実現していくためには、あらゆるツールを効果的に活用する力が問われてきます。そこで、「単に実験の結果を覚えるのではなく、予想や結果について言葉を用いて記述すること」、「どのような解答の仕方が求められているのかを読み解くこと」、「理由を記述するうえで、解答の筋道を論理的に書くこと」を、今後伸ばしていきたいです。そのためには、観察や実験の過程や結果を文に書いたり、設問に求められる条件を見つけたりすることが大切です。身近にある事象や具体物を「なぜそうなるの?」「なぜそう考えたの?」等、子どもに説明させる問いかけを意識的に使うことは、ご家庭でも、保護者と共に取り組むことができます。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向（児童質問紙調査について）

特徴的なこととして、「学校に行くのは楽しいですか?」、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか?」、「友達と協力するのは楽しいと思いますか?」という質問では、全国値を上回りました。子どもたちが、学校教育目標を理解して、充実した学校生活を送っていることがうかがえます。また、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか?」という質問には、ほぼ全員が肯定的回答をしており、その割合も全国値を上回っています。正しい倫理観が育っていることがうかがえます。

また、「自分にはよいところがあると思いますか?」、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか?」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか?」という質問でも、肯定的回答が全国値を上回りましたが、「将来の夢や目標を持っていますか?」という質問では、全国値をやや下回りました。これまで取り組んできた自己肯定感や自己有用感が育ちつつあるので、卒業に向けてキャリア教育を充実させていきます。

3. 今後の取り組み

子どもたちの学力を定点測定するのがこの調査の目的ですが、その「測定する学力そのもの」に対する考え方が変化してきています。「他者に伝えるときにどのように伝えるか」とか「資料をどのように活用するか」というような実践的な場面で知識をどのように活用できるかというところに重点が置かれています。これは、現在実施されている学習指導要領で「何を知っているか」から「何ができるようになるか」を重視しているからで、計算力や暗記力から実践的な場面で使える知識やスキルに学力の柱が移ったことを示しています。また、このことは、社会等すべての教科についても同じです。

本校では、ここ数年、学校教育目標を「つたえよう わたしの思い うけとめよう あなたの思い」として、「学び合い」による授業方法に取り組んでいます。主体的で対話的な深い学びの実現をめざし、他者とのかわりの中で学力や探究心を育む方向での授業研究をしていますが、今後もこの方向で研究、授業改善を行っていきます。また、令和4年度は、令和3年度の結果から2年計画で「書くこと」にも取り組んでおります。

4. ご家庭にご協力いただきたいこと

最後に、「活用する能力」を育てるために、ご家庭でもできることをお知らせします。例えば、学校で習った学習や、読んでいる本に対し「その物語は、どんな内容なの?」とあらすじを説明してもらうことや「学習をしてどう思った?」と聞いてもらうことが、子どもの思考力を高めていくことにつながります。学校であった出来事や、新聞やテレビのニュースを題材にして、家庭で会話をたくさんしていただくことも有効です。

また、日常生活の中で、物事の様子や答えの求め方を自分の言葉で説明する機会を作っていただくことも、子どもの思考力を育てます。まとめたり、順序立てて説明したりすることが苦手な子どもには、スモールステップとして、ヒントとなる言葉をいくつか示し、言葉をつなげて文章にするところから始めていただければいいと思います。

家庭生活においては、「就寝・起床時刻を守る」「家庭学習の時刻や時間を決めて取り組む」「携帯電話・スマホやコンピュータの使い方について、家庭で約束したことを守る」等、規則正しく生活させることや、「地域の行事に参加する」「新しいことにチャレンジする」等、いろいろな人やものに触れ合う機会を持たせることも進めていただければ、学力向上に繋がります。ご協力、よろしく願いいたします。